

# 西中学校区 保幼小中連携通信

グローイングアッププラン 2年目  
第1号 平成30年11月22日

〔点を明確にするブロック連携〕  
発行責任者 福田 ・ 黒岩  
(西中学校区連携コーディネーター)

## ～ 道徳とは？ ～

みなさんは児童・生徒に「なんで道徳の勉強をするの？」  
と聞かれたら、どのように答えますか？



みなさんはどのように考えましたか？ちなみに、この質問を西中の何人かの先生方にお聞きしました。すると次のような答えが返ってきました。

- 「人として生きていくために今までの事例を通して学んでいくため」
- 「立派な大人になるため」
- 「大人になって困らないため」
- 「大人になるための蓄え」
- 「自分の考え以外を知るため」
- 「人間としての生き方を気付く、考えるため」

どの先生もしっかり考えてくれました。どれも正しいと思います。一回「道徳とはなにか？」と考えて、それから“道徳科で扱うべき価値項目”をどのように扱っていくかを考えてみるのもありだと思います。



連携通信が遅くなりましたのは、大変申し訳ございません。道徳を取り扱うにあたって、あまりにも無知な状態でしたので、この期間自分のできる範囲で勉強をしていました。1学期の荒木さんの研修内容を何回かに分けて通信で振り返りをしていきたいと思います。また、11月30日の小中合同授業研でも道徳を取り扱いますので、少しでも参考になればと思っています。

一学期の6月7日に西中の2年生のクラスで道徳の研究授業を行いました。今回の道徳のテーマは「班を中心とした仲間作り」。キーワードは“相互理解”。内容は文科省の中学校学習指導要領に次のように書かれています。

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。  
(P. 155参照)

今回の教材はドラえもん。とても身近であり、支援籍の生徒も分かりやすくクラスの全員が参加することが出来ました。小学校は 今年 から、中学校は 来年 から道徳の教科書があります。どうしても教科書をそのまま使うと、「読み物」教材になってしまいます。この「読み物」教材に一石を投じる研究授業だったのではないのでしょうか。



皆さんの書かれた感想からも次のようなことが書かれていました。

- 映像や貼物など、視覚的な支援がありわかりやすかった。ほとんどの生徒が幼いころから親しんでいる「ドラえもん」を教材にしたのはよかったと思う。ジャイアン・のび太などのそれぞれの長所短所を含めた個性を考えながら班づくりに取り組むことができていた。
- 「ドラえもん」を教材として使用することは興味付けできましたが、5人の内4人組で1人をはずすというより、8人くらいの中で考えるほうがいい。性格というより人物の関係性で決めていっていた。
- 配慮のいる子もきちんと参加できる教材だったのでよかったです。マイナス発言を言う子がいても、プラス発言をしてくれる子もいて、いろんな人の意見を交流できて、よい機会になったと思う。時間にもう少し余裕があれば、もっと交流が深まったのでよかったですと思いました。
- みんなが知っているドラえもんをあつかった授業だったので、班での活動もすごく活発でよかった。今日の授業を見て、教材選びは大切だと思った。
- 中学生はとても落ち着いていて、自分の意見を伝える時にも周りの友だちが静かに聞いてくれたり、拍手をしてくれたりとても安心できる雰囲気だなと感じました。また、読み物教材のデメリットは私もとても感じます。ですが、今は必死に教科書をやっている状態です。映像などを活用して、子どもたちが自分事として深く、身近に考えられるような道徳をしたいなと思いました。
- 自分自身道徳の授業をするとき、教科書を使用して進めていたが、今日の授業のようにキャラクターを使うと子どもたちを引きつけることができると感じた。授業を通して、どのような力をつけたいのか明確にすることの大切さを学んだ。
- ドラえもんを使った教材、子どもたちが興味を持って取り組んでおり、今までの道徳の授業とちがった切り口でとても参考になりました。

